

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和六年度九月 入賞句一覧

投句数 六百八十句

特選

田中 青志 選

指先に伝ふ果汁や桃をむく

大垣市 山田 千歌子

桃は果実の王様。物語にも登場する美味芳醇さはだれもが認めるところ。その桃を頂く前の喜びのリアルさを書く。無作法ながら、口を持つていき嚙りたくなるがごとき溢れる果汁の桃を頂く幸せのひとときを思う。

きりぎりすあしたはもつと良き日なれ

大垣市 大杉 すみゑ

今日はいいい日であった、あしたはもつとよき日になれば贅沢かもしれないが、その願いたい。今日の夕暮れ、西空を赤く染めて今日が暮れて行く。その昔、仲の良い子たちと唄をうたいながら帰った道は今も変わらず、夕風の吹くくさむらには、高らかにきりぎりすが鳴いている。

猫じやらしいたずら心おきにけり

大垣市 細川 敦子

いたずらところがおきるのがこの猫じやらしの風体。そもそも猫をじやらししたことからの名前、呼び方、起こりというから、不思議ではない。そのいたずらも他愛ないものであるところから、遊び心がおきても笑って許せるよろしさを持っているところがおもしろい。

秀逸

青空や朝日に匂ふ稲の花

大垣市 樋口 絹子

手話と言ふ静かな対話金魚鉢

大垣市 坪井 克枝

働くを掟のごとく蟻の列

大垣市 浅野 翔泉

あごで水押し上げてゐる緋鯉かな

大垣市 村瀬 佐智子

人はなぜ戦をする原爆忌

大垣市 近藤 富士子

新涼やきのふと違ふ雲の形

岐阜市 廣瀬 あや子

暫くは花野に風のかたちかな

兵庫県姫路市 三木 崇弘

他愛無い夫婦の会話冷奴

瑞穂市 谷 牛歩

蛸の絶唱といふ孤独かな

長野県下伊那郡 長沼 まさし

ひらひらと風を掬ひて踊りけり

埼玉県さいたま市 澤田 紫

入選

音を消し明かりも消して虫浄土

養老郡養老町

田中 紫香

帰省子に安堵の寝顔ありにけり

大垣市

町野 眞佐子

昨日とは違ふ風吹く今朝の秋

大垣市

岡田 あや子

蚊もいない終わりの見えぬ残暑かな

京都府宇治市

中村 広美

赤のまま昔は小溝飛べたのに

奈良県奈良市

やまとなでしこ

冷麦の紅一筋を子の腕に

東京都世田谷区

関戸 信治

耳石ことりと元にもどりて秋の声

埼玉県川口市

吉永 寿美子

秋日和三代並び糸たるる

大垣市

北村 陽子

月渡る実家じまいを迎へたる

本巢市

山田 香山

稲穂たれ今年も役に御立あれ

大垣市

土屋 和馬

病棟の長き廊下や秋夕焼

大垣市

松岡 みつ

夕暮のたたみにこもる暑さかな

不破郡垂井町

竹嶋 富美子

冷静になれと夕立の降り出しぬ

養老郡養老町

松永 智志

平凡な句もまた愉し秋の空

大阪府東大阪市

森 佳月

白鷺を朱に染め上ぐる夕日かな

大垣市

長柄 あけみ

選者吟

コップの水の表面張力秋に入る

青 志



一般の部